

「高校生のための学びの基礎診断」制度

- 平成28年3月の高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえ、有識者による検討・準備グループ等において具体的な検討を推進。同グループによる「論点整理」（平成29年3月）や試行調査（平成29年1～3月）の結果を踏まえ、平成29年7月に「高校生のための学びの基礎診断」実施方針を策定。
 - 「高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「学習意欲の喚起」を図るため、文部科学省が一定の要件を示し、民間の試験等を認定する制度を創設し、多様な民間の試験等（測定ツール）の開発・提供、その利活用を促進。それにより、高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進。
 - 「高校生のための学びの基礎診断」検討ワーキング・グループにおける専門的な検討を加え、高校・教育委員会等の関係者、民間事業者等の意見やパブリック・コメントによって得られた意見等を考慮しつつ、平成30年3月に『高校生のための学びの基礎診断』の認定基準・手続等に関する規程を策定。
 - 平成30年12月に初めて測定ツールの認定を行い、平成31年度から本格的に利活用開始。
- ※学校や教育委員会等において選択・利活用について検討し、次年度の年間指導計画等に反映。



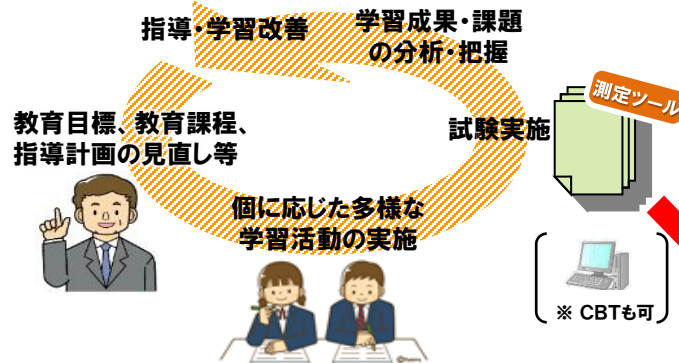
高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

取組を促進

高校

社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、教育課程を編成。

多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実を図っていく。



教育委員会等

教育委員会等による
学校への支援

○高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備

○学校支援のための人材配置や予算措置、教員研修等の取組

測定ツールの
充実

「高校生のための学びの基礎診断」制度の創設

（一定の要件に即して民間の試験等を認定する制度を創設）

認定基準等の設定

審査・事後チェック体制の整備

仕組みの構築と運用を通じて、民間事業者等から高等学校の実態に応じて選択可能な多様な測定ツールが開発・提供され、その利活用が促進されることが期待。

認定基準

（出題）

- ・学習指導要領を踏まえた出題の基本方針に基づく問題設計
- ・対象教科は国・数・英（共通必修科目中心、義務教育段階含む）
- ・主として知識・技能を問う問題に加え、主として思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題
- ・記述式問題の出題
- ・英語4技能測定

（結果提供）

- ・学習成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資する結果提供 等

（認定の有効期限）

- ・認定の有効期限は認定をしたときから3年後の年度末まで



「高校生のための学びの基礎診断」 認定ツール一覧 (令和7年度認定分)

認定期間: 令和10年3月31日まで

(※令和8年度4月1日時点)

対象教科	団体名	測定ツールの名称	基本 タイプ (※1)	標準 タイプ (※2)
国数英 (5件)	株式会社 Gakken	基礎力測定診断 ベーシックコース	●	
	株式会社 ベネッセコーポレーション	進路マップ 基礎力診断テスト	●	
		進路マップ 実力診断テスト		●
		スタディーサポート α タイプ、 β タイプ、 θ タイプ		●
		ベネッセ総合学力テスト		●
国 (3件)	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	文章読解・作成能力検定 4級	●	
		文章読解・作成能力検定 3級		●
		文章読解・作成能力検定 準2級		●
英 (4件)	Cambridge University Press & Assessment	ケンブリッジ英語検定 A2 Key for Schools(PB/CB)		●
	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC Bridge® Tests: TOEIC Bridge® Listening and Reading Tests TOEIC Bridge® Speaking and Writing Tests		●
	ブリティッシュ・カウンシル	Aptis for Teens (アプティス フォー ティーンズ／中高生向けAptis)		●
	株式会社 ベネッセコーポレーション	GTEC Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ	● Core	● Basic Advanced

※1: 義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ

※2: 高等学校段階の共通必修科目の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ